



174号2023.3



図書館ホームページ

川口市立図書館

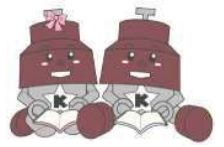
図書館だより

図書館ホームページURL

図書館公式ツイッターアカウント

<https://www.kawaguchi-lib.jp>

@kawaguchi_lib



図書館公式ツイッター

わたしの今年の一冊 2022

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をご紹介頂く「わたしの今年の一冊」は、今回で27回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で22点掲載させていただきます。

『モンテレヅジョ 小さな村の旅する本屋の物語』

内田洋子／著 方丈社 2018年刊 024.3／ウ

内田氏は、イタリア生活が長く、イタリア文化に精通している。取材が丁寧であり、文献にしっかりあたり話をよく聞く、そして推察する。いっしょに旅した気分になり心が安らいだ。「～客たちにとって、行商人が持ってくる本は未来の友人だった」本は大切な心の寄り処である。(60代)

『植物はなぜ動かないのか—弱くて強い植物のはなし』

稲垣栄洋／著 筑摩書房2016年刊 471／イ

「変化が求められる分、変えてはいけないものを大事にしなければならない」という言葉が心に残りました。植物は「子孫を残す」ために多種多様な進化を遂げた。なら私も確固たる自我をもって成長していき、唯一無二の自分になってこれからの人生を歩みたいと感じました。(10代)

『親子の法則—人生の悩みが消える「親捨て」のススメ』

三凜さとし／著 KADOKAWA 2022年刊 367.3／サ

私は親との関係になやみ、苦しみそして生きづらさを感じたときにこの本に出会いました。

本の内容を実践していく内に心が軽くなりました。親との悩みのある方の読んでほしい。(20代)

『ぼくは福祉で生きることにした

—お母ちゃんがくれた未来図』

河内崇典／著

水曜社 2022年刊 369.1／カ

普通の大学生がバイトとして障害者介助を経験したことから福祉の道へ入っていく話です。障害児・者、子ども・若者の支援活動をしながらか仲間とともに社会福祉の課題に取り組む葛藤していく姿が心に残りました。最近取り上げられている社会福祉問題が現在でも解決されず継続していることを知り考えさせられました。(50代)

『ひねもすなむなむ』

名取佐和子／著 幻冬舎

2021年刊 B 913.6／ナ

東北のお寺の住職になるために来た若いお坊さんのお話です。檀家の人々にそって相談にのりながら自分自身の心のわだかまりも解けていきます。正解はありませんが無理して頑張らなくてもいいと思え元気がでできます。最後に住職の謎もわかってスッキリです。

『みちづれの猫』

唯川恵／著 集英社

2019年刊 913.6／ユ

7人の女性と猫達との癒しと再生の物語です。唯川先生はドロドロの恋愛だけでなく人生の滋味を描くのも上手いなどと思った作品です。(30代)

『ものの見かたが変わる10歳からのQ&A』

NHK「子ども科学電話相談」制作班／編

NHK出版 2022年刊 K404／モ

子どもだけでなく大人にも分かりやすく
専門家が説明していて、考えさせられる
内容でいろんな人に読んで欲しいと思い
ました！（30代）

『ステップ』 重松清／著 中央公論新社

2009年刊 913.6／シ

母親が早くに亡くなってしまい、母子家
庭で育った美紀。それでもたくさんの温
かい人にかこまれて父親のめいっぱいの
愛情の中で育った美紀ちゃんがうらやま
しいです。ほっこりしました。（10代）

『護られなかった者たちへ』

中山七里／著 宝島社

2021年刊 B913.6／ナ

涙なくしては読めません。人を想う気持
ち、こんなにも他人を想いやれる深い愛
情、又弱い立場の人達への社会福祉への理不尽さ。温かく
もせつなさが残る1冊でした。（不明）

『プロジェクト・ハイル・メアリー 上・下』

アンディ・ウィアー／著 小野田和子／訳

早川書房 2021年刊 933.7／ウ

好きだけど科学的な話が理解できなくて
挫折する事も多いSFですが、この本はわ
かりやすく、しかもとても面白かったで
す。異星人と戦わずに力を合わせて、共通
の問題を解決する方法を探す展開に驚き、感動しました。
地球人・グレースと異星人・ロッキーの両方が、お互いに相
手を助ける為に命がけで必死に行動する所では涙が出ま
した。

宇宙船ハイル・メアリーの目的を果たすため、地球の人々が
国の垣根を越えて協力し合うのも良かった。こんなふうに
世界中の人々が心をつなぐことが出来たら素晴らしい
のになあと、現実を思っ少し悲しくなりました。（40代）

『華氏451度』

レイ・ブラッドベリ／著 宇野利泰／訳

早川書房 2008年刊 B933.7／ブ

本を持つこと、読むことが許されていない
未来のお話。世間で言う「普通」とは何か。
物事の本質は何か。自ら考えることに目ざ
めた主人公の冒険。周りの声にだまされず自らを信じるこ
との大切さを感じさせる。すごい小説。（その他）

『かわいい子ランキング』

ブリジット・ヤング／作 三辺律子／訳

ほるぷ出版 2022年刊 Y933／ヤ

「かわいい子ランキング」その言葉にどん
な印象をもつか？人によって感じ方が全
然違うということに気づかせてくれる本。価値観は人それ
ぞれで良い。価値観の変化や違いを恐れなくてもよいし、
揺らぐことがときに不安や共感へのパイプとなり、そこか
ら新しい発見に繋がるのが人生の面白さなのだと、凝り
固まった固定概念をほぐしてくれた一冊。（40代）

『マカン・マラン』シリーズ

古内一絵／著 中央公論新社 913.6／フ

渋味深いスープを飲んでいる様な気持ち
になりました。私にもこんな居場所が
あったらいいなと思いました。現代は、こ
の本に出てくる心のよりどころの様な場
所をみんなが必要としているのではない
かと思いました。（30代）

『リバー』

奥田英朗／著 集英社

2022年刊 913.6／オ

連続殺人事件、それは10年前の2件の殺
人と同一犯なのか？刑事と新聞記者、遺
族の父親の執念が交錯するエンターテイ
メント。10年間追い続けた定年刑事の覚
悟が結末のどんでん返しを呼び込む。快楽殺人犯・多重人
格の青年の心理描写、息もつかせぬ展開に読む手が止ま
らない。（70代）

『旅をする木』 星野道夫／著

文芸春秋 1995年刊 295.3

アラスカの大自然に生きる動物を愛した写真家のエッセイ。ピュアな筆致に心が洗われる。「クマの存在を意識することは贅沢なことで、人間が忘れていた生物としての緊張感を呼び起こしてくれる」というくだりは、著者の覚悟であり遺書でもあったと感じた。(70代)

『始まりの木』 夏川草介／著 小学館

2020年刊 913.6／ナ

表紙は大きな木がのびやかに枝を伸ばしている。内容は、偏屈な民俗学者と大学院生が日本各地へフィールドワークに出かけ、訪れる土地でちょっと不思議な出来事にあう。読み終わり、柳田邦夫の『遠野物語』を読んでみようかと思う。そして、表紙の大きな木を見上げるシルエットの人物に気がつく。じわじわと良い本だったなあと身にしみてくる本です。(60代)

『日本軍が銃をおいた日』

ルイ・アレン／著 笠井亮平／監訳・解説

長尾睦也／訳 寺村誠一／訳

早川書房 2022年刊 210.7／ア

太平洋戦争終結前後のビルマ、タイ、インドネシア、仏印、インド、朝鮮、満州、中国にて降伏した日本軍と現地での連合軍側の対応や民間人たにちについて、よく纏められている。近現代史の良書。(60代)

『収容所(ラーゲリ)から来た遺書』

辺見じゅん／著 文芸春秋

1989年刊 916／ハ

敗戦後、シベリアの収容所(ラーゲリ)で長い年月を送った日本人捕虜達の実話。

「僕たちはみんな帰国するのです。その日まで美しい、日本語を忘れぬようにしましょう」と仲間を鼓舞し続けた※山本幡男の遺書は、驚くべき方法で監視網をかい潜り遺族に渡された。その一途さに涙があふれた。(70代)

※(誤)山本春男→(正)山本幡男 '23.3.15訂正

『ロボット・イン・ザ・ガーデン』

デボラ・インストール／著 松原葉子／訳

小学館 2016年刊 B933.7／イ

私は劇団四季が好きで観劇したあとに本作を読んだのですが、ロボットのタンクの成長とベンの家族に対する想いがあったかくて、ページをめくる手が震えて思わず涙しました。(10代)

『ボタニカ』 朝井まかて／著 祥伝社

2022年刊 913.6／ア

「日本植物学の父」富太郎博士※の生涯を描いた本。植物学一筋で生計もままならず、独学で植物の知識を身につけ、新種の発見、標本作成等植物分類学の基礎を築いた。特に植物画は緻密、色彩の美しさは現代のデジタルでは表現が困難かも。読後「牧野記念公園」に行き、再び感動した。(70代) ※(誤)博七(正)博士 '23.3.15訂正

『君が戦争を欲しないならば』

高畑勲／著 岩波書店

2015年刊 319.8／タ

”『火垂るの墓』は反戦映画ではない”
高畑勲監督は映画公開当初からずっとそう主張してきた。人間の作り出す正義や倫理の危うさを冷静に見つめ、誤魔化すことなく作品をつくってきたクリエイター高畑勲が、やさしい言葉で戦争とは何か、「戦争を欲しないならば」どうすべきかを語っている本。(30代)

『ランチ酒』シリーズ

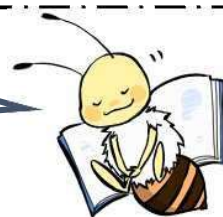
原田ひ香／著 祥伝社 913.6／ハ

ひとりで昼から美味しい食事とお酒を嗜むという幸せを疑似体験できる。人は誰しもいいこともつらいことも抱えているが、美味しいと感じると、この先も頑張ろうと思える。生きることは食べること。シンプルですごく沁みる。(40代)

このほか、

- 『サーカスの夜に』小川糸／著 ●『かがみの孤城』辻村深月／著 ●『ライオンのおやつ』小川糸／著
- 『ムーミン谷の彗星』トーベ・ヤンソン／著 ●『食堂のおばちゃん』シリーズ山口恵以子／著
- 『天下を計る』岩井三四二／著 ●『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ／著 ●『夜に星を放つ』窪美澄／著
- 『砂に埋もれる犬』桐野夏生／著 ●『痴漢冤罪』新堂冬樹／著 ●『大東亜戦争 上・下』波多野澄雄ほか／著
- 『ロリータ』ウラジーミル・ナボコフ／著 ●『桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか?』高橋創／著
- 『ペルシアの陶器』三上次男／著 ●『沖縄戦』平塚紘緒／著 ●『カゲロウデイズ』シリーズじん(自然の敵P)／著
- 『三千円の使いかた』原田ひ香／著 ●『暗幕のゲルニカ』原田マハ／著 ●『いつもの木曜日』青山美智子／著
- 『大相撲殺人事件』小森健太郎／著 ●『ことことこーこ』阿川佐和子／著 ●『銀翼のイカロス』池井戸潤／著
- 『役にたたない日々』佐野洋子／著 ●『一瞬の風になれ』シリーズ佐藤多佳子／著 ●『らんたん』柚木麻子／著
- 『Moonshot』アルバート・ブーラ／著 ●『苦役列車』西村賢太／著 ●『染め付け』有坂多絵子／著
- 『「お金」で読む日本史』本郷和人／監修 ●『富士山の大研究』江藤初生／著 ●『夜が明ける』西加奈子／著
- 『シャンタラム上・中・下』グレゴリー・デイヴィッド・ロバーツ／著 ●『ファーストペンギン』坪内知佳／著
- 『よみぐすり』坂口恭平／著 ●『音楽室の日曜日』村上しいこ／作 ●『花屋さんが言うことには』山本幸久／著
- 『救命センター「カルテの真実」』浜辺祐一／著 ●『コンビニ兄弟1・2』町田そのこ／著
- 『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬／著 ●『すべての月、すべての年』ルシア・ベルリン／著
- 『なるほどかしこい日本のとんち話』富田博之／著 ●『おいしいごはんが食べられますように』高瀬隼子／著
- 『お探し物は図書室まで』青山美智子／著 ●『王妃マリーアントワネット』遠藤周作／著
- 『任侠楽団』今野敏／著 ●『しっばいにかんぱい!』宮川ひろ／作 ●『いつか、眠りにつく日』いぬじゅん／著
- 『二百十日』夏目漱石／著 ●『虚ろな革命家たち』佐賀旭／著 ●『宙ごはん』町田そのこ／著
- 『道德教室』高橋秀実／著 ●『もう別れてもいいですか』垣谷美雨／著 ●『スマホ脳』アンデシュ・ハンセン／著
- 『ウォーターシップ・ダウンのウサギたち 上下』リチャード・アダムズ／著
- 『ハリー・ポッター』シリーズ J.K.ローリング／作 ……などの本をご応募いただきました！

紙面の関係で、お寄せ頂いた感想や書名のすべては掲載できませんでした。
ご応募いただきました皆様、ありがとうございました！！



川口市立図書館 連絡先・開館時間

【中央図書館】

☎048(227)7611
住所: 川口市川口
1-1-1

平日
午前10時～午後9時
土・日・祝日
午前9時～午後6時

【前川図書館】

☎048(268)1616
住所: 川口市前川
3-4-27

【戸塚図書館】

☎048(297)3098
住所: 川口市戸塚東
3-7-1

【新郷図書館】

☎048(283)1265
住所: 川口市東本郷
1688

【鳩ヶ谷図書館】

☎048(285)3110
住所: 川口市坂下町
3-16-6

【横曽根図書館】

☎048(256)1005
住所: 川口市仲町
10-16

【芝園分室】

☎048(269)2241
住所: 川口市芝園町
3-17

平日
午後1時～午後5時
土・日・祝日
午前10時～午後5時